

研究・調査報告書

報告書番号	担当
339	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol-related predictors of delirium after major head and neck cancer surgery 主要な頭頸部がん手術後のアルコールが関連した幻覚症状の予測因子	
執筆者	
Shah S, Weed HG, He X, Agrawal A, Ozer E, Schuller DE.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Otolaryngol Head Neck Surg. 2012 Mar;138(3):266-71.	
キーワード	
幻覚症状、頭頸部がん、アルコール、平均赤血球容積、起始コホート	
要 旨	
<p>目的： 術後幻覚症状のアルコールが関連した予測因子を同定する事</p> <p>デザイン： 起始コホート、ステップワイズ法によるロジスティック回帰分析</p> <p>設定： オハイオ州立大学総合がんセンター、コロンバス</p> <p>対象者： 頭頸部の扁平上皮がんの切除を受けた 774 名</p> <p>主要アウトカム： 19 変数の術後幻覚症状との相関。19 のうちの 4 変数は人口統計学的変数 (性別；年齢；人種；一人暮らし)、5 変数は医学的変数 (悪液質；以前から存在する認識機能障害；ナトリウム、カリウム、血糖値の異常；機能分類；平均赤血球容積)、2 変数は外科的変数 (手術時間；アメリカ麻酔学会分類)、8 変数はアルコールに関連した質問に対する対象者の回答</p> <p>結果： 外科的処置を受けた 774 名中 89 名は幻覚症状を合併した。6 変数が優位に幻覚症状と関連した：年齢≥ 69 歳 (オッズ比、2.43; $P < .01$)、以前から存在する認識機能障害 (3.83; $P < .01$)、手術時間≥ 6 時間 (2.40; $P < .01$)、平均赤血球容積≥ 95.0fL (2.23; $P < .01$)、アルコールを減らすように助言されていた (2.25; $P = .01$)、前年に少なくとも連続した一週間アルコールを控えていない (2.16; $P = .02$)。幻覚症状リスク変数の保有数で層別化すると、保有数=0 の 198 名中 2.5%、=1 の 278 名中 6%、=2 の 206 名中 18%、>2 の 92 名中 34% が幻覚症状に罹患した。</p> <p>結論： 3 つのアルコール摂取に関連しない臨床的変数 (年齢、以前から存在する認識機能障害、手術時間)、アルコール関連の検体検査 (平均赤血球容積)、2 つのアルコールに関連する質問 (「飲酒を減らすべきだと誰かに指摘されましたか?」、「昨年、アルコールを摂取しなかった日数は連続で最大何日ですか?」) は患者の術後幻覚症状のリスクを推定するのに役立つかもしれない。</p>	